

ストップ・ぎ・がんの会だより

Vol. 10 2014.08

発行：NPO法人ストップ・ぎ・がんの会 (代) 762-3010

事務局：福岡市中央区天神2-1-3-7福岡平和ビル3階(公財)福岡県すこやか健康事業団内

第13回講演会を終えて

7月12日(土)ふくふくプラザで開催した講演会には78名のお客さまが来場されました。講演は講師お二人によるがんに関する話をして頂きました。園田紀子先生は、「福岡市のがん検診について～国のがん対策～」のテーマで福岡市が健康都市を目指して取り組んでいる「健康ふくおか10か条」を提唱していること、がん予防には食生活が極めて重要であること、などについて話されました。鶴丸大介先生は、「胃がんを恐れるその前に」というテーマで話され「食道、胃、大腸を専門にカメラ等で検査を行い診断の結果では手術をしている。胃がんの6割は早期がんで、しかも治る」とのことでした。来場者から「大腸ポリープは10年経つとがんになると聞いている。胃のポリープはどうして癌にならないのですか」との質問に、「ポリープは胃炎から起こり、がんになるかというところ

というわけではなく、ピロリ菌に感染すると胃がんができやすい虫になる」などと言われました。来場された方々から「両先生の話は分かりやすかった」「レジメを配付してほしい」「がんの会の活動状況の展示物は工夫が必要」などのご意見が寄せられました。今後の参考にいたします。引き続き当会へのご支援を戴きますようよろしくお願い申し上げます。(高嶋)

鶴丸先生の講演



園田先生の講演

++++講演会裏方のつばやき++++
開催数か月前から「作業分担進捗表」



NHK TV 出演 講演会PR 2014.7.11



に基づき、企画書作成、行政、各種団体等の対応など40数目的点検項目で進み具合を検討、市の広報センター等に置かせてもらっているチラシの捌け具合や、申込受理状況などを把握するたびに、不安がよぎる。準備委員は心をひとつにして頑張りました。お蔭様で講演会には大勢のお客さまが来ていただきました。皆様の応援に感謝し関係者の方々お疲れさまでした。(下田)



リレー・フォー・ライフとは？

1985年米国のシアトルでひとりの医師が「がん患者救済」や「がん征圧と予防」を訴え始めたチャリティイベントで、医療従事者、患者と家族、友人が数人ずつチームを組み左記の広場で池の周囲を24時間歩き続け、がんと闘っている患者、がんで亡くなられた方を偲び、早期発見予防の大切さを社会に訴えます。

リレー・フォー・ライフ・JAPAN 2014 福岡

日時 2014年9月13日(日) 開幕 11時から

9月14日(月) 閉幕 11時まで

(24時間開催)

場所 海の中道海浜公園・光と風の広場

主催 公益財団法人日本対がん協会

リレー・フォー・ライフ・ジャパン福岡実行委員会

がん検診の手伝い

今年も、6月25日(水)東区の三苦公民館で実施された「がん検診」の応援に行ってきました。三苦地区は、私の母校和白中学校があり懐かしいところです。がん検診の受診者は41名でした。事前申込者のみしか受診できなくなった為か、昨年よりかなり少ない人数でした。毎年受診されている方がほとんどでした。各地区は回覧板等で事前申し込みの案内をしているのですが、受診者が減少したという結果は残念でした。検診状況は、受診者の待ち時間なども少なく、各検診の進み具合も順調でした。

私は、次回からの受診者増の為には、どのような啓発活動をしたらよいのか考え始めました。まず、応援に行く前の取り組みをみんなで議論すること、また、行政にも受診率アップの対策を検討してもらわねばと考えます。個人に働きかけることが大事だと思うので、日頃から私たちの身近な人に「検診を受けましょう」と声掛けをしていこうと思っています。(大岸)

7月14日(月)今宿公民館がん検診手伝いに行きました。生憎の霧雨が時々降ってくるという空模様でしたので、受診者が減るのではと心配でしたが、総人数が29名、胃がん15名、肺がん17名、子宮がん15名といった状態でした。昨年と比較しても少なくなっているようです。受診者の一人に聞きましたところ、昨年は並んで大分待ったが、今年はスムーズに検査を受けられたと言っておられました。6月27日ストップ・ぎ・がんの会が出前講座を開催した時は、受診予約者が16名だったのが、最終予約者は総数31名だったとのこと、じんましんを発症しておられる方もおられ、29名の受診になりました。衛生連合会や関係者の方々の努力によるものと感謝します。また、出前講座後に15名の予約が入ったことは、当会の出前講座による受診増もあったものとうれしく思いました。(田中)



川柳
★目的は 見学後の 試飲会
★乞み紙 解く音止まぬ コンサート
★急いでも 電話のベルの 終わりとる
★横断を 次まで待てり この年で
★バイオリンに 酔いて居眠り コンサート
は(こぞ)おき)

唇に歌を！ 心に太陽を
(西田)
夏の終わりから秋にかけて、赤とんぼの群舞は、一つの風物でしたが、最近では環境の変化でようやく殆ど見ることが出来なくなりました。童謡「赤とんぼ」はよく歌います。「赤とんぼ」を口ずさみますと、九年ほど前のある新聞に掲載された「六歳で逝った息子の思い出」という文章に印象づけられたことを思い出します。それは当時八〇歳のある婦人の投稿でした。「私には先天性小児まひの真ちゃんという子がいました。わずか六歳で逝ってしまいました。ほとんど寝たきりで言葉もしやべれませんでした。でも人の話は理解でき、うれしと「きやつきやつ」と喜びの声をあげました。ある日の夕方、あまりの夕焼けの美しさに、「真ちゃんに見せてあげよう」と抱き上げて窓辺に腰かけ、思わず「赤とんぼ」の歌を口ずさみました。真ちゃんはそれはそれは見たことがないほど目を輝かせてうれしそうな声をあげました。驚いた私は、何度も繰り返し歌ってあげました。涙が止まりませんでした。その後もこの子の笑顔見たさにも窓辺で歌って抱きしめました。その子が逝って四十年になりました。私は今、小学校支援のボランティアで、春になると『六年生を送る会』のとき、『赤とんぼ』を歌わせてもらいます。」と声の欄に投稿された内容です。この文章を読んだ時、親子の情愛が目に映り、涙したことが今でも脳裏に浮かびます。この文章を！の文言をお聞きになった方もおられると思います。うれしかった時、苦しかった時、そして悲しい思いをした時など、歌に慰められた方、元気づけられた方もあろうかと思えます。皆さま、歌いましょう。唇に歌を！そして、太陽のように暖かい心で日々を過ごせたら、こんなに素晴らしいことないかも知れません。如何でしょうか。

行事 9月 2日(火) 運営委員会、 16日(火) 定例会、 22日(月) 福重公民館(出前講座)
10月 2日(木) 健康フェスタ(あいれふ) 7日(火) 運営委、 17日(金) 健康フェア(東区保健所)

ご寄付のお願い ストップ・ぎ・がんの会では、がん検診の受診率向上を目指し啓発活動を行っています。活動にご理解頂ける方からのご寄付を受付中です。1口1,000円(何口でも可) 振込先: ゆうちょ銀行振替口座・口座番号01700-4 番号125067 加入者 特定非営利法人ストップ・ぎ・がんの会へ皆様の暖かいご支援をお願いします。